



11月度の御書

「棧敷女房御返事」 (無量無辺の功德の事)

御文

たとえば、はるの野の千里ばかりに草
さのみちて候わんに、すこしきの豆ばかりの火をくさひとつにはなちたれば、一時に無量無辺の火となる。このかたならも、またかくのごとし。一つのかたならなれども、法華經の一切の文字の仏にたてまつるべし。
この功德は、父母・祖父母、乃至無辺の衆生にもおよぼしてん。
(御書新版1704ページ、御書全集1231ページ)

意味

たとえば、春の野が千里ほどの広さに草が生いしげっている所に、豆つぼほどの小さな火を、草一つに放つたとすると、すぐに燃え広がって無量無辺の火となる。この帷子(服)も、同じである。一枚の帷子ではあるけれど、法華經のすべての文字の仏に供養したことになる。
この功德は、あなたの父母、祖父母、さらに多くの人々に及ぶことは、まちがいありません。

一人の勇氣の行動は世界を変える

ライオン博士のキング君だよ！読書の秋ということで、今回はお話をひろうしよう。タイトルは、「日蓮大聖人と女性の弟子・さじきの女房さんの真心の物語」。はじまり、はじまり～。

さじきさんは、大聖人からのお手紙を大切に、家族や友だちと読んでいました。師匠からの励ましの言葉にふれると、うれしい気持ちでいっぱいになります。

そこで感謝の気持ちをこめて、大聖人へおくり物をすることに。

「そろそろ暑い夏がやってくるころだから、大聖人のお体が心配だわ。すずしい着物が必要ね」

さじきさんから夏の着物を受け取った大聖人は、自分をおもっておくり物を準備してくれた、彼女の真心を喜びました。そしてお礼のお手紙を書きました。

「さじきさん、夏の着物をおくってくれて、ありがとう。あなたの、この一つの真心の行動は、無限の功德となるでしょう。

想像してみてください。春の広い野原の1本の草に、小さな火をつけたとする。さて、どうなる？

火は最初は小さくても、勢いを増して野原いっぱい

がるでしょう。

同じように、あなたが私に着物をくれたことにも、大きな意味があります。一枚の着物をおくっただけ、とあなたは思うかもしれないけれど、そうではないのです。

あなたが私を気づかせてくれた真心は、数えきれないほどたくさんの仏におくり物をしたのと同じくらいすばらしいことです。

その真心は、幸せとなって、あなたの家族や、周りの大切なみなさんにも届くでしょう。一人の真心には、たくさんの人を幸せにできる力があるのです」

さじきさんは喜んで、大聖人から教わった真心の力を、みんなに伝えていきました。それを聞いた一人一人も、小さな真心を大切にできるようになりました。さじきさんの周りには、真心の人が増えていったのでした。おしまい♪

だれかを思って行動する人ってすてきななあ。そんな、さじきさんの真心が次々と周りの人に伝わり、広がっていったんだね。

池田先生は「一つの行動から、すべては始まる。一言の励ましから、勇氣が生まれる」と語られているよ。

一人の勇氣は、周りの人を、環境を、そして世界を変える。まず一歩から行動してみよう！